

バビロニアによるエルサレムの陥落の年代考察

ものみの塔の出版物では絶対年代（西暦前539年）を用いているので考古学より正しいという主張していますが、ゼカリヤ書7:5に「万軍のエホバの言葉が引き続きわたしに臨んでこう言った。「この地のすべての民また祭司たちに言うように、『第五の月また第七の月にあなた方が断食を行なって泣き叫んだ時、しかもそれは七十年に及んだが…』」とあります。それは、ダリヨスの第4年(ゼカリヤ書7:1)で、B.C.518年です。

*** 洞察 - 228ページ ゼカリヤ書 ***

ヘスライ語聖書のその書は、扱われている期間や書かれたおおよその年代を確定するための根拠も与えています。ゼカリヤ書の中に見られる時の指標として最後のものは、ダリウスの治世の第4年、キスレウ4日（西暦前518年12月1日ごろ）という日付です。（7:1）

B.C.518年の70年前は、B.C.588(7)年になります。考古学での年代は587(6)年となっています。それは歴史的な捕囚の年です。

ですから、エホバは「あなた方は断食を行い続けて、これまでに70年が過ぎた」と述べておられるのです。

捕囚の年から断食を始めて、70年間に及んでいるのは、自然なこと、もしくは当然のことです。バビロン捕囚は「自分たちの罪のゆえに」及んだ事ですから、それを神の前に悔い、それ以来、その日を忘れないために、毎年、それ記念して、断食を励行してきたのです。

「洞察」の第1巻104ページでも、そのように述べています。

*** 洞 - 1104ページ ***

「70年に及んだバビロンでの流刑の期間中、この第5の月は、ユダヤ人がエルサレムの神殿の滅亡を思い起こし、断食をして嘆き悲しむ時となりました。（ゼカ 7:3, 5; 8:19）」

従ってその断食をした70年間は、流刑になっていた70年間です。

つまり、それはB.C.588(7)年に始まり、ゼカリヤ7:1が述べる通り、ダリヨスの第4年、B.C.518(7)年に満ちました。これが聖書が明確にしている捕囚に関する記述です。

しかし、ものみの塔の主張どおり、もしバビロン捕囚が1914年の起算とされるB.C.607年であったとすると、なぜ、突然思い出したかのように、理由もなくその年から20年も経った後のB.C.588年から断食を始めたのか説明がつきません。

さて、今日、バビロンの商業文書の粘土板が何十万部も出土して、それに商取引の年月日が書かれています。それで現在、バビロンの全ての王の統治期間はすべて解明されています。

その粘土板の記録では、ネスカデネザルの即位の年は、B.C.605年です。

バビロン捕囚はネスカデネザルの第19年(Ⅱ列王記25:8)ですから、捕囚の年はB.C.586/7年となります。この考古学上の年代は、冒頭に挙げたゼカリヤ書の内容と合致します。

これに対して、ものみの塔は、これを認めていません。その理由は「考古学は信用できない」というのがその理由です。しかし、洞察第二巻の年代学の項(P436 下記引用文参照)で商業文

書は信用できるといっています。

「その証拠に「カンビュセス2世の…支配の第1年は西暦前529年で、…キュロス2世のバビロンの王としての最後の年は西暦前530年でした。」と、考古学に依存しなければ特定できない年代を特定しています。

こうしたものみの塔の年代説明と歴史資料をと照らし合わせてみますと、極めて不思議な事実が浮かび上がって来ます。

キュロスやカンビュセスはペルシャの王です。つまり、ペルシャの年代は考古学を当然の拠り所として年代の特定をしているのに、新バビロニア帝国、それも特別にネスカデネザルの年代に関してだけは、考古学を信用できないと言っています。

言い換えればいわゆる「BC607年」が関わって来るところだけに限って、一般の歴史（全ての歴史家）が一致して認めているにも関わらず、それは信用できないと主張しているわけです。それ以外については、考古学資料をむしろ100%受け入れて、それを「絶対年代」と呼ぶA.D.29やB.C.539年を取りあげています。

たとえば、ものみの塔はバビロン陥落の年B.C.539年を絶対年代として、年代計算の土台にしていますが、その根拠を証明するために、洞察第二巻(P437 下記引用文参照)で、ジャック・フィネガンの「聖書年代学便覧」のオリュンピアドを使っています。

全面的には「信用できない」要素を持つ考古学を「絶対」確実な証明に用いているというのはどういう事でしょうか。

また、「洞察」が根拠として引用しているこの「聖書年代学便覧」には、商業文書で解明された、ネスカデネザルの統治表が載っており、本文でもはっきりとネスカデネザルの即位はB.C.605年だと述べています。従って、バビロン捕囚の年である第19年は、B.C.607年ではなく、B.C.586年となります。これはダリヨスの第4年(ゼカリヤ書7:1)の記述と一致します。(注：このジャック・フィネガン著「聖書年代学」は三笠宮崇仁氏の翻訳版が出ていて日本語で読むことができます。

*** 洞 - 2 436ページ 年代計算, 年代学, 年代記述

カンビュセス2世の第7年は西暦前523年の春に始まったのですから、同2世の支配の第1年は西暦前529年で、それが同2世の即位年でもあり、キュロス2世のバビロンの王としての最後の年は西暦前530年でした。キュロス2世の治世中に記された書字板は、同2世の第9年、第5の月の23日のものです。(「紀元前626年 - 紀元75年のバビロニア年代学」, R・パーカーおよびW・デュバーシュタイン共著, 1971年, 14ページ) キュロス2世のバビロンの王としての第9年が西暦前530年でしたから、その計算によれば、同2世の第1年は西暦前538年で、その即位年は西暦前539年でした。

*** 洞 - 2 437ページ 年代計算, 年代学, 年代記述

バビロン陥落の年である西暦前539年という年代は、フトレマイオスの王名表だけでなく、他の資料からも得られます。歴史家ディオドロスだけでなく、アフリカヌスやエウセビオスも、キュロスのペルシャの王としての第1年が第55オリンピアード1年（西暦前560/559年）に相当したことを示しており、キュロスの治世の最後の年は第62オリンピアード2年（西暦前531/530年）とされています。楔形文字の書字板はキュロスがバビロンを支配した期間を9年としています。**ゆえに**、キュロスによるバビロン征服の年代が539年であることは**実証されている**と言えます。—「聖書年代学便覧」, ジャック・フィネガン著, 1964年, 112, 168 - 170ページ

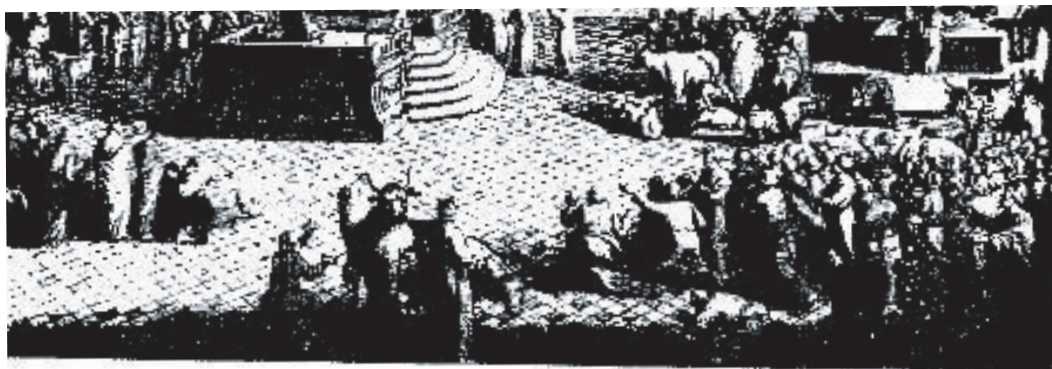
これが「絶対」年代である「前539年」の「絶対」と言える根拠です。

「ゆえに」というのは、つまり「この理由で」「これを根拠として」ということです。

「実証されている」と断言する根拠となっているのは、「フトレマイオスの王名表」「歴史家ディオドロス、アフリカヌス、エウセビオスが用いているオリンピアード」「楔形文字の書字板」です。

ものみの塔の説明をまとめるとこういうことになります。「決して信用できない考古学によって、前539年は、絶対確かであると「実証」されています。

イスラエル国の公式の歴史資料でも紀元前586年を捕囚の年としています



ユダに分裂した。

イスラエル王国はイスラエルの10部
り地域にサマリアを首都として、19
り王の下に200年以上の統治が続い
一方、ユダ王国はユダとベンヤミ
2部族の地域にエルサレムを首都
て、ダビデ直系の王によって400年
統治された。

しかし、アッシリア帝国、バビロニ
王国が拡張を始め、先にイスラエル

王国を、次にユダ王国をその支配下
におさめてしまった。

イスラエル王国は紀元前722年アッ
シリアに滅ぼされ、民は追放されて忘
れ去られた。その136年後、今度はバビ
ロニアがユダ王国を征服し、神殿を破
壊（紀元前586年）し、住民のほとん
どをバビロニアに連れて行って捕囚に
した。